

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成に対する理念等に関する書類）

（１）大学・学科の設置理念

①大学

時代の進展に即応した魅力ある学術文化の拠点として、広い視野に立った高度の専門的知識・技術を身に付けた、創造力と実行力に富む人間性豊かな人材を養成するとともに、先端的な特色ある研究を推進し、その学術情報を社会へ開放することにより、福井県はもとより、我が国と世界の福祉の向上に寄与するため、大学を設置し、および管理することを目的とする。

この使命を達成するために、次の三つの基本理念を掲げている。

- １．新しい時代にふさわしい魅力ある大学
- ２．特色ある教育・研究を行う個性ある大学
- ３．地域社会と連携した開かれた大学

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【創造農学科】

福井県立大学生物資源学部創造農学科では、「福井の県土とふるさと社会の持続可能性を支える」という福井県立大学のミッションを具現化するため、地域社会の根幹である、「食・農・環境」の持続可能性に寄与できる実際の創造的なジェネラリストを養成する。本学科では、総合的な創造的な実践力が身に付くよう教育方法と体制を工夫している。本学が県立であることから、県の農業試験場等のフィールド、研究員などの実務教育力、さらに全県に展開する卒業生をはじめ民間経営の農牧場の場と講師陣を活用する。新品種の創出など、研究はもちろん、学部基幹の共通講義による専門科目で基礎力を学ぶことはもとより、実務経験をもつ教授陣のコーディネートにより全県キャンパス化、地域の教育力の活用を図り、さらには卒業生の全県ネットワークによる地域の創造的活性化をも目指す。そのため、以下の教育目標を定める。

教育目標

「食と農と環境」に関連する広範囲な分野で中心的に活躍するための知識と技術と経験を備えた人材を育成する。そのため、次の教育目標を定める。

- １．食用作物、園芸作物、飼料作物、家畜など、多様な農林畜産物に関する農学的知識を身に付け、農業生産に関する広範囲な実践的素養を体得する。
- ２．農林畜産物の生産・利用法・加工・商品開発やマーケティング等の分野における最先端の技術を学び、次世代展開を図るために必要な知識と技術を身につける。
- ３．食と農と人（文化、芸術、福祉）を取り巻く環境について、地域や日本、世界の状況を知り、特に地域においては、その保全や修復の実践を通して学び、持続可能な環境や地域社会の構築に向けて行動するために必要な知識と技術を身につける。
- ４．必要な情報収集能力を身につけるとともに、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につける。
- ５．技術的な課題を自ら見出し、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設計・解決する能力を身につける。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につける

ディプロマポリシー

食や農、環境に関わる様々な業種で活躍するために、以下の素養を身につける。

- １．専門能力：農業、食品業等における資材の調達、生産、加工・流通、消費について地域資源の活用、脱炭素化、労力軽減・生産性向上等のイノベーションを推進し、豊かな生活を実現するうえで必要な、食・農・環境に関する知識・技術・経験を習得するとともに、経営戦略やマーケット等を学び、経営感覚や新展開能力・開発能力を身につけている。

2. 情報収集能力・コミュニケーション能力：急速に変化する技術に対応するために必要な情報を収集でき、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につけている。

3. 課題解決能力：技術的な課題を、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設定・解決する能力を身につけている。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につけている。

【恐竜学部】

福井県は、30年以上にわたり恐竜化石発掘・研究を推進し、恐竜時代の環境や生態の解明を行ってきた。

本学部は、福井県で蓄積された恐竜研究の成果をさらに発展させ、恐竜を含む古生物学を中心に、地質学・古環境学など恐竜研究の背景となる分野の教育・研究活動も加え、現代社会が直面する環境変化などの自然科学の諸問題に対応できるような、幅広い教養と専門的な知識・技術を持ち、多様な局面において協働的および自主的に課題を探索・解決できる人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー

恐竜学部は、卒業に必要な所定の単位数以上を修得した学生に対して、次の基準に照らして学士（理学）の学位を授与する。

- ① 地球科学をはじめとする自然科学分野のみならず、文理横断的な幅広い教養・視野を修得している。
- ② 古生物学や地質学、古環境学、デジタル科学等の専門知識を身につけ、またそれらに関連する調査研究方法を修得している。
- ③ プレゼンテーションやディスカッション、フィールドワークを通して自身の理解を分かりやすく正確に伝えることができ、他者とコミュニケーションを取り協働することができる。
- ④ 迅速に発展するグローバル社会やデジタル社会に適応し、外国語やデジタル技術を地球科学諸問題の課題に適切に活用することができる。
- ⑤ 地球科学分野の中でも恐竜を含む古生物学・地質学において自ら問題意識をもち、研究に取り組むことができる。

（２）教員養成の目標・計画

①大学

福井県立大学の教育職員養成課程では、教師養成にあたって、まず第一に確かな授業指導力のある教師の養成を目指す。その指導力とは、十分な専門的学力を前提とした、幅広い教養と確かな人生観に裏付けられた学力に基づくものである。

第二に、教師という職業に情熱をかたむけ、常に生徒の立場に立って生徒のことを考え、生徒の生活全体を指導育成でき、生徒から敬愛の念をもたれるような教師を育成する。また、このような目的から、教育職員養成課程での教師養成にあたっては、教師の仕事の魅力、教師の仕事の奥深さ、等を常に実感できるような教育体制を整える。

第三に、めまぐるしく変化する現代社会にあって常に時代の趨勢や要請を的確に読みとり、すすんで新しいことを自ら学習して教育の場に生かせる教師を育成する。

以上の点から、福井県立大学教育職員養成課程の理想とする教師の姿は、

1. 楽しく充実した授業指導ができる教師
2. 生徒の立場に立ち、生徒と共感でき、人生の先達者として誠意ある生活指導の行える教師
3. 絶えず好奇心を失わず、時代に先駆けて、新しく自身が学び続ける教師である。このような教師を育成することを教育職員養成課程での教師養成の目標として、その充実・発展を目指す。

加えて、福井県立大学大学院専修免許状教育職員養成課程では、大学院卒ならではの高度な知識・技能を生かして、学校での教師の模範となり、指導的役割を発揮するような教師を養成することを目指す。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【創造農学科】

本学科の教職課程では、農業の専門分野に関して確かな指導力のある教員の養成を目指す。その指導力とは、十分な専門的学力を前提とした、以下の資質を備えた幅広い教養と確かな人生観に裏付けられた教員である。

第一に、食用作物、園芸作物、飼料作物、家畜など、多様な農林畜産物に関する農学的知識を身につけ、農業生産に関する広範囲な実践的素養を体得している教員。

第二に、農林畜産物の生産・利用法・加工・商品開発やマーケティング等の分野における最先端の技術を学び、次世代展開を図るために必要な知識と技術を身につけている教員。

第三に、食と農と人（文化、芸術、福祉）を取り巻く環境について、地域や日本、世界の状況を知り、特に地域においては、その保全や修復の実践を通して学び、持続可能な環境や地域社会の構築に向けて行動するために必要な知識と技術を身につけている教員。

第四に、食・農・環境に関する必要な情報収集能力を身につけるとともに、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につけている教員。

第五に、食・農・環境に関する技術的な課題を自ら見出し、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設計・解決する能力を身につけており、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につけた教員。

【教職指導の予定】

1 年次 （4 月）学部オリエンテーション（教育研究委員）

（4 月）学部 1 年対象の前期履修指導

履修指導担当は 1 年担任および副担任 計 2 名

事前・事後に情報交換を行う

（10月上旬） 学部 1 年対象の後期履修指導（担当は前期に同じ）

2 年次 （4 月）学部前期オリエンテーション（教育研究委員）

学部 2 年対象の前期履修指導

履修指導担当は 2 年担任および副担任（持ち上がり） 計 2 名

事前・事後に情報交換を行う

（10月）学部後期オリエンテーション

学部 2 年対象の後期履修指導（担当は前期に同じ）

3 年次 （4 月）学部前期オリエンテーション（教育研究委員）

学部 3 年対象の前期履修指導

履修指導担当は 3 年担任および副担任（持ち上がり） 計 2 名

事前・事後に情報交換を行う

実習校決定についての相談 ← 教職教員、各学科担当者

OB教員の声を聞く会（予定）

（10月）学部後期オリエンテーション

学部 3 年対象の後期履修指導（担当は前期に同じ）

→指導内容は各研究室へ

（11月、12月）実習開始、4 年次生との交流会

4 年次 （4 月）学部前期オリエンテーション（教育企画委員）

（5 月～）教育実習 （7 月）採用試験

（11月、12月）実習報告反省会、実習終了時の交流会

＜教職課程の運営における都道府県及び市区町村教育委員会との連携・協力に関する取り組み＞

本学科では、大学のキャンパスが立地するあわら市教育委員会とタイアップし、学生による市内の学校における出前授業

の講師派遣に協力する予定である。また大学において小中高校生を対象とする講座を開講する。このような取り組みに教職課程を受講する学生が積極的に参加することが期待できる。

福井県立大学全体の取り組みとして、教職課程を受講している学生に対して、福井県教育委員会の推進する心のパートナー事業や適応指導教室活動にボランティア指導者として参加することを広報・募集している。また福井県教育委員会の提唱する学校教育インターンシップ諸活動への応募を促すことによって県教育委員会と連携・協力しており、本学科においてもインターンシップを正規科目として単位を認定する。

福井県内外の農業系高等学校に赴任している本学卒業生を招き、教職課程受講学生との交流の機会を設けることを予定しており、これも教育委員会との連携・協力の具体策としたい。

＜教職課程の運営を通じた地域社会への貢献に関する取り組み＞

本学科では、大学のキャンパスが立地するあわら市等の要請とタイアップし、地域社会におけるイベントや発表への学生の参加に協力する。このような科目を教職課程の学生が積極的に受講することが期待できる。

本学科の教職課程が、農業の専門性を有する理科教員のような、県内の他大学ではみられない独自の専門性をもつ教員を地域社会に送り出すことは、それ自身一つの地域社会への特色ある貢献である。また、全学共通の取り組みとして、教職課程を受講している学生が、福井県教育委員会の推進する心のパートナー事業あるいは適応指導教室活動にボランティア指導者として参加することや、福井県教育委員会の提唱する学校教育インターンシップ諸活動に関わっていくことも地域社会への貢献の取り組みとなる。

【恐竜学部】

恐竜学部では、現代社会の地球科学諸問題に対応するため、一般教育科目による文理横断的な幅広い教養と専門教育科目による地球科学に関する知識・技術を学ぶことで、多様な局面において協働的および自主的に課題を探究・解決することができる人材を育成する。従って、本学部の教職課程でも、十分な専門的知識に裏付けされた幅広い教養と思考力、確かな指導力をもって指導できる教員を育成すること、また、生徒の意見を尊重し、わかりやすく表現してコミュニケーションと指導ができる能力を備える教員を養成することに重点をおく。そのために、以下の資質を備えた教員を育成する。

1. 本学部では物理、化学、地学、生物学を基礎とし、それらを発展させた地球科学と生命科学の両者を理解することを目指している。そのために、より広く、高度な知識を身につけ、それらの相互関係を有機的に連動させ、新しい分野を開いていくための実践能力を養い、高い専門性を有する教員の育成を目指す。

2. 地球科学は基礎科学を統合的に結びつけて理解する必要がある、古生物学や進化生物学はさらに生物自体の機能形態や適応能力を加えて学ぶ必要があり、幅広い知識と科学的な思考力が必要とされる。そのため、本学部では実験・演習・実習を通して、修得した知識・経験を実践的に活用する課題解決力が高い教員を育成する。

3. 本学部では、地球科学分野において大型CTや3Dスキャナーなどのデジタル技術を活用する教育も重視している。デジタル技術を用いることで、多様な形・大きさの化石や、地層・地形をデジタル化し、現場の記録やデータ解析に利用できる。また、作成したコンテンツは教育・研究以外にも、観光資源として社会的な活用が見込まれる。そのため、常に社会とのつながりを意識しながら活動できる教員を育成する。

4. 特に、本学部では従来の概念にとらわれず、修得した知識と技術に基づき、課題解決のための計画を立案して実践する能力を身につけることを目指している。これらを達成するためには、多くの人との協働作業が必要になる。そのため、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする協調性とコミュニケーション能力を身につけた教員を育成する。

5. 卒業時点で、得られた成果を総括し、口頭で発表するとともに積極的に議論し、質問に対して的確に回答できるプレゼンテーション能力を養う。そのため、自らの考えを論理的に表現し、議論するための対話能力と文章作成能力を身につけた教員を育成する。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨

【創造農学科】

生物資源学部は、生物資源学科と本学科の二学科体制である。生物資源学科では「理科」の教員養成のための専門教育を組み込み、本学科では、「農業」の教員養成のための専門教育を組込む。本学科においては「農業」の専門教育を行う教員養成のための教育コースを整える。なぜなら、福井県には農業科を設置する高等学校が3校あり、農業科の募集定員の合計で266名となっているが、一方で、「農業」に関する専門教育を実施するのは福井県内では本学のみであるため、農業県である福井県において農業人材を育成する農業科教員を本学科が安定して輩出する必要がある。本学科では、県内で伝統的な農法を守る取り組みや、最先端の機器を用いたスマート農業など様々な取り組みを実施する農業従事者を講師として実習や講義を実施し、幅広い専門的知識を身につける教育コースを整える。これにより専門分野の十分な知識を前提とし、幅広い教養に裏付けされた知識・技能をもった優れた教員志望者を社会に送り出すことが可能となる。このことは、また、青少年の指導的立場に立つことをもとめる学生には、絶好の職業資格を得る機会を与えることとなる。

【恐竜学部】

恐竜学部 恐竜・地質学科

恐竜学部では、恐竜を含む古生物学を中心とした分野と地質学や古環境学を基礎とした分野を幅広く扱い、物理、化学、生物学など自然科学関連の科目を通して、地球科学を総合的に理解できるよう教育する。併せて、現在の災害や地球環境変動に対しても適応できるリテラシーをもった教育を行う。

現代社会において、災害や地球温暖化など地球の自然について学び、社会活動との共存を考えることは、災害が頻発する日本で生活する上で重要となってくる。特に、福井県では、令和6年1月の能登半島地震をはじめ、豪雪や地滑り等を経験し、自然現象の脅威に接している。これらに適切に対処するためには、まずは学校教育の期間に、地学など身近な自然と社会とのかかわりに強く関連する分野をしっかりと学び、さらに生涯にわたって自然に関心を持ち続けることによって、自然災害に備えたり、環境保全に努めたりすることが重要である。

しかし、地学を学べる高等学校は全国で10%にも達していない。さらに、選択科目なので授業が開講されないところもあり、学びたくても全国の9割以上の高校では地学を選択できないのが現状である。福井県内においても地学を開設している高校はない状態が続いている。そのため、地学の教科書に関しても減少が続き、現在は啓林館の1社しかない状況にある。一方、地学基礎に関しては文系にも広く開講されていることもあり、43%前後の開設率が全国でも記録され、福井県や石川県では50%を越え富山県でも40%を越えている。

これらの需要はあるものの、福井県には地学を専門的に学ぶ教員の養成・育成機関はほとんど存在しない。したがって、本学部に教職課程を設けることにより、理科教員に必要な専門分野と考えられる地学を中心とした専門知識・技能をもった教員志望者を社会に送り出すことが可能となる。これにより、子どもたちに現代社会で生活していくうえで必要となる地球科学の知識を伝えていくことが可能となると同時に、学生にとっても絶好の職業資格を得る機会を与えることになる。

なお、本学部では、教育研究委員会委員（1名）を中心に、教職担当教員、教務担当職員などとの連携のもとに教職課程を運営するとともに、教職課程の質の向上や学生に対する責任ある教職指導のための組織的な取り組みを含めた教職指導体制で臨む。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	教育研究審議会
目 的：	大学の教育および研究に関し、審議を行う
責 任 者：	学長
構成員（役職・人数）：	学長、副学長、事務局長、学長が定める教育研究上の重要な組織の長、教育研究審議会が定めるところにより学長が指名する職員
運営方法：	年間11回程度開催。重要な規程の制定または改廃に関する事項のうち、大学の教育研究に関するもの、教育課程の編成に関する方針に係る事項、教育研究委員会において協議された事項等を審議する。

②

組織名称：	教育研究委員会
目 的：	大学の教育および研究に関し、協議検討を行う
責 任 者：	教育研究委員長
構成員（役職・人数）：	副学長、各学部、学術教養センターおよび附置研究所に所属し、教育および研究に知見を有する教員、事務局職員
運営方法：	年間11回程度開催。教職課程部会において協議された事項等を取りまとめる。

③

組織名称：	教職課程部会
目 的：	教職課程の運営に関する事項、教職指導に関する事項、教育実習に関する事項、その他教職課程に関する事項の協議検討を行う。
責 任 者：	教職課程部会長
構成員（役職・人数）：	部会長、各学科から教員1人、学術教養センターの教員2人（教職に関する科目を担当する教員）、教育・学生支援部長、教育推進課長
運営方法：	必要に応じて開催する。実習生の承認、実習先への派遣教員が必要な場合は、人選を行う。教職課程の実施計画、教育実習前のガイダンスや教職指導の年間スケジュール、教員免許状更新講習の実施計画について協議する。

④

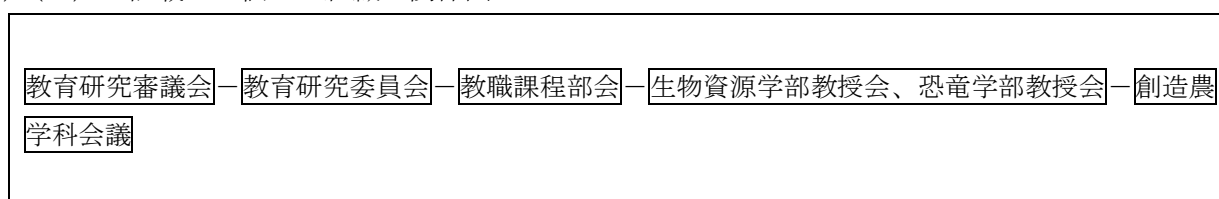
組織名称：	生物資源学部教授会、恐竜学部教授会
目 的：	学部における教育および研究に関する事項、教育課程の編成、学生の成績の管理、入学、卒業、学位の授与事項に関して審議する。
責 任 者：	学部長
構成員（役職・人数）：	生物資源学部教授、恐竜学部教員
運営方法：	年間11回程度開催。構成員の3分の2以上出席すること。教授会の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、教授会が特に重要と認めた事項については、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。なお、恐竜学部は、1学部1学科のため学科会議を兼ねる。

様式第7号イ

⑤

組織名称：	創造農学科会議
目的：	学科における教育および研究に関する事項、教育課程の編成、学生の成績の管理、入学、卒業、学位の授与事項に関して協議検討を行う。
責任者：	学科長
構成員（役職・人数）：	創造農学科教員
運営方法：	年間11回程度開催。学部教授会において審議する事項の提案と審議された事項の報告を行う。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

近隣県の高校を含めて、校長や進路指導担当、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業等の担当教員との意見交換を継続的に実施している。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称：	心のパートナー事業
連携先との調整方法：	毎年福井県教育委員会からの依頼を受け、学生を派遣している。
具体的な内容：	学生が、小・中学校、適応指導教室、もしくは、家庭で、不登校等の不適應を起こしている児童生徒の話し相手となる。

②

取組名称：	学校現場体験
連携先との調整方法：	嶺北特別支援学校見学実習受入れ担当者と春季休業期間での実習日を調整
具体的な内容：	教育実習の事前指導の一環として、3年次に1日（8時間）嶺北特別支援学校で見学実習を実施し、学校現場での活動や指導の手助けに積極的に関わられるよう努めている。

Ⅲ. 教職指導の状況

教職課程の運営に関わる全学的な組織（教職課程部会）を中心として、学生の教職指導を行っている。履修に関する全体的な指導は、主に1年次と2年次の教職課程ガイダンスで行っている。加えて、個別的な指導として、教職課程部会の教員と事務職員が常時相談に応じており、学生が教職課程を円滑に履修できるように、そして、教職の勉強が充実するようにサポートしている。また、教員採用試験を受験する予定の学生や授業外で教職の勉強をしたい学生を対象として、サークルを組織し、教員がその運営と指導（発表会や勉強会での助言など）に携わっている。学生

様式第7号イ

の学習支援のために非常勤講師（元学校教師）を雇用しており、その教員も授業外での教職指導に携わっている。

様式第 7 号ウ

<生物資源学部創造農学科> (認定課程: 高一種免(農業))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	教師論や教育制度論等を学び、学校という制度、教師という仕事、教師の役割、教師に必要とされる資質について理解する。また、外国語・情報科学や一般教育科目を学び、教師としての教養的資質を身につける。
	後期	教育原理や生徒進路指導論等を学び、教育という営みや生徒理解・指導のあり方について理解する。また、引き続き外国語・情報科学や一般教育科目を学び、教師としての教養的資質を拡げる。
2 年次	前期	1 年次までの学習に加えて、より応用的な学習により、教育に関して多角的な見方ができるようになる。
	後期	教育に関してより幅の広い見方ができるようになる。また、これまでの学習を元に、教師としての適性を確認する。
3 年次	前期	2 年次までの学習に加えて、農業科教育法+C5を学び、教育に関して多角的な見方ができるようになる。
	後期	教育実習事前指導を通して、教科指導等の実践的な資質・能力を向上させる。教育実習に臨むための態度を確立する。
4 年次	前期	教育実習での実践を通して、ここまで学習してきたことを確認するのみならずそれを深化・発展させる。また、教師という仕事について理解を深めると共に教師としての資質を確認する。
	後期	4 年間の学習の集大成として、自らの学習をふり返り、農業科教員になるにあたっての課題を確認し、その課題の克服に努める。

様式第7号ウ（教諭）

<生物資源学部創造農学科>（認定課程：高一種免（農業））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教師論	食農環境・文化概論		日本国憲法	生物学基礎
		教育心理学	総合農学		体育実技Ⅰ	化学基礎
		教育方法論(情報通信技術の活用含む)	食農環境実習Ⅰ		英語A	生物学Ⅰ
		教育制度論	食農環境演習Ⅰ		データサイエンス基礎	
			農業インターンシップⅠ			
	後期	教育原理・教育課程論	食農環境・文化概論		体育実技Ⅱ	生物学Ⅱ
		教育相談	総合農学		英語D	
		特別支援教育	食農環境実習Ⅰ		情報科学	
		特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	食農環境演習Ⅰ			
		生徒・進路指導論				
2年次	前期		職業指導論			作物学
			食農環境実習Ⅱ			施設園芸学
			食農環境演習Ⅱ			
			農業インターンシップⅡ			
			蔬菜園芸学			
			花卉園芸学			
			微生物利用学			
	後期		食農環境実習Ⅱ			
			食農環境演習Ⅱ			
			微生物利用学			
前期		農業科教育法Ⅰ	育種学実験Ⅰ			農業市場論
			育種学Ⅰ			育種学実験Ⅱ
						蔬菜園芸学実験

3年次	前期					花卉園芸学実験
						果樹園芸学実験
						植物保護学実験
	後期		育種学実験Ⅰ			農業経営論
		農業科教育法Ⅱ	育種学Ⅱ			育種学実験Ⅱ
						蔬菜園芸学実験
						花卉園芸学実験
						果樹園芸学実験
						植物保護学実験
4年次	前期	教育実習				
	後期	教職実践演習(高)				

様式第 7 号ウ

< 恐竜学部恐竜・地質学科 > (認定課程：高一種免 (理科))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	教師としての資質に不可欠である幅広い教養や思考力を身につけるために、英語や情報科目等の一般教育科目を学ぶとともに、理科教員として基礎的な知識を身につけるために物理学Ⅰ、化学Ⅰ、生物学Ⅰなどの教科を学ぶ。さらに、地学概論を通して、地球科学の基礎を身につける。また、教師論や教育制度論等を学び、学校という制度、教師という仕事、教師の役割、教師に必要とされる資質について理解する。
	後期	古生物学概論、地層学等を学び、古生物学・地質学の基本的な知識を身につける。教育原理や生徒・進路指導論等を学び、教育という営みや生徒理解・指導のあり方について理解する。一般教育科目では、英語・情報科目以外にも人文科学科目や社会科学科目などを通して文理横断的に幅広い知識を身に付け教師としての教養的資質を拡げる。
2 年次	前期	2年次前期では、地球科学基礎実験において地球科学に関する実践的な技術・手法を学ぶ。また、4つのプレートが沈みこむ複雑な構造を持つ日本列島や福井県の成り立ちを日本列島形成史を通して学ぶ。このように、1年次までの基礎的な学修に加えて、より応用的な学修へ発展させることにより、教育に関して多角的な見方ができる教員の資質を身につける。
	後期	2年次後期では、地球年代学を通して、生命の進化における新しいトピックスを学び、新しい知識や考え方を修得する。また、地球環境変動学などを学んで地球の環境変動を理解し、知識と応用、研究に必要な知識を身につける。これまでの学修により理科として基本的な知識が取得され、また、地球科学と他分野の関係や科学技術の発展について学んだことで教育に関する応用力が養われ、より幅の広い見方ができるようになる。
3 年次	前期	3 年次以降はコース分けが行われ、恐竜・古生物コースと地質・古環境コースに分かれる。本年次は専門的な科目を学修し、各コース教員によって行われる専門応用科目や実験・実習が行われる。これにより、地質・古生物、古環境に関するより高度な知識と応用、研究に必要な能力を身につける。例えば、古生物地理学や古生物多様性学などでは、古生物の地理的分布や時空間分布を学ぶことを通して、多面的に物事を捉える力を養う。
	後期	3年次前期に引き続き、コース分けによる専門的な科目を学ぶ。災害・防災学Ⅰでは、地震などの自然災害が多い日本において必要不可欠となる知識や防災・減災の考え方について学修する。このような知識・思考力を修得することで、地域に貢献できる実践力のある教員を養成する。また、教育実習事前指導を通して、教科指導等の実践的な資質・能力を向上させ、教育実習に臨むための準備を行う。
4 年次	前期	教科に関する科目ではないが、本学部では各指導教員によって少人数でおこなわれる卒業演習や卒業研究などを卒業要件としている。卒業研究では、大学3年間で学び、経験した内容を基に、自らが興味や問題意識を持ったテーマを設定し、課題解決のための実験・調査を進める。また、教育実習での実践を通して、ここまで学修してきたことを確認するのみならずそれを深化・発展させる。このように、教師という仕事について理解を深めると共に教師としての資質を確認する。
	後期	4年次前期に引き続き、実験や調査で得られた結果を客観的・論理的に考察して、卒業研究としてまとめる。それによって研究能力のみならず、文章力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを身につける。また、4年間の学修の集大成として、自らの学修を振り返り、理科教員になるにあたっての課題を確認し、その課題の克服に努める。また、教職実践演習(高)では教師としての力量と資質が4年間の学修で身に付いたかを確認し、さらにより良い教師になるための課題を見つけ、それを解決することを通して、卒業後に教育現場で働くことに備える。

様式第7号ウ（教諭）

<恐竜学部恐竜・地質学科>（認定課程：高一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教師論	物理学Ⅰ		日本国憲法	地球科学フィールド実習Ⅰ
		教育心理学	化学Ⅰ		体育実技Ⅰ	
		教育方法論(情報通信技術の活用含む)	生物学Ⅰ		英語A	
		教育制度論	生物学序論		データサイエンス基礎	
		理科教育法Ⅰ	地学概論			
			地球史入門			
	後期	教育原理・教育課程論	物理学Ⅱ		体育実技Ⅱ	海洋生物学
		教育相談	古生物学概論		英語D	
		特別支援教育	地球環境学概論		情報科学	
		特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	地層学			
		生徒・進路指導論				
		理科教育法Ⅱ				
2年次	前期		日本列島形成史			植物生態学
			地球科学基礎実験			進化生物学
						地球化学序論
						古生物学Ⅰ（脊椎動物）
						地質調査法実習Ⅰ
						地質図学演習
						地球科学フィールド実習Ⅱ
						古生物学実習Ⅰ
						岩石・鉱物学
						ジオパーク学
			地球年代学			デジタル古生物学概論
			地球環境変動学			デジタル古生物学研究法実習

	後期		古生物学実験			地球化学
						海洋底地球科学
						地球物理学
						恐竜学特論
3年次	前期		古生物地理学			地球科学フィールド研究
			古生物多様性学			古生物データサイエンス学
						古生物学実習Ⅱ
						地質調査法実習Ⅱ
						地球化学実験
						海洋地球科学実習
						コンピュータグラフィック概論
	後期		災害・防災学Ⅰ			古生物学Ⅱ(微古生物)
						恐竜発掘実習
						古植物学
						古生物学Ⅲ(無脊椎動物)
						応用地質学
4年次	前期	教育実習				
	後期	教職実践演習(高)				